

分担研究報告書

女性のヘルスリテラシー向上に向けた介入に関する文献レビュー

研究分担者 大西 麻未

順天堂大学大学院医療看護学研究科

研究要旨

女性の健康支援への取り組みの一環として、ヘルスリテラシーの向上に向けた介入に着目し、どのような介入がどの程度行われているか、その効果指標にはどのようなものがあるか整理するために、文献検討を行った。令和2年度は文献を収集し、スクリーニングを行って内容整理を進めた。PubMed, Embase, Cochrane, Web of science, Emcare を対象に2020年11月に文献検索を行い、2260件を得た。包含基準に従って278件まで文献を絞り、介入の目的や方法、評価方法について整理を行っている。その結果、乳がん予防、子宮頸がん予防をテーマとした文献が多く得られ、次いで性行動や骨粗鬆症予防に関するものが得られた。今後、これらの整理を進め、効果的な介入およびその評価の視点について整理を進める予定である。

研究協力者

松永佳子 東邦大学大学院看護学研究科 准教授

A.研究目的

A. 研究目的

女性の心身の状態や健康課題はライフステージごとに大きく変化するものであり、それらのステージに応じた健康支援の取り組みが求められている。同時に女性の就業率上昇や晩婚化、晩産化に伴い女性の健康課題はより複雑化・多様化しており、健康支援に向けたさまざまな取り組みが効果的に行われているのか、不足しているのはどのような領域かなどを明らかにしていく必要がある。また、自治体や企業においてさまざまな取り組みが行われる中で、それらの取り組みの評価はどのように行っていくべきかを検討することも必要である。

近年、人々の健康規定要因としてヘルスリテラシーの概念が重要視されるようになり、ヘルスプロモーションの中心的要素としても位置づけられるようになって<sup>1)</sup>いる。ヘルスリテラシーとは、人々が日々の生活の中での健康に関することや疾病予防、ヘルスプロモーションについて判断したり、決定したりするた

めに必要な、健康情報にアクセスし、理解し、評価して活用する知識、動機づけや能力を意味し、生涯にわたる生活の質の維持・向上につながるものである<sup>2)</sup>。女性の生涯にわたる健康を支えるためには、自身のライフステージや生活状況などの背景を踏まえた取り組みが必要であることを踏まえると、女性自身がそれらを理解し、正しい知識を得て必要な支援にアクセスする力、つまりヘルスリテラシーの向上が重要課題の一つであると考えられる。実際に、女性のヘルスリテラシーの高さは、仕事のパフォーマンス、望んだ時期の妊娠や不妊治療の実施、女性特有の症状への対処など、健康アウトカムや健康行動と関連することが明らかにされている<sup>3)</sup>。そこで本研究では、女性の健康支援への取り組みの焦点が様々考えられる中で、ヘルスリテラシーの向上に向けた介入に着目し、どのような介入がどの程度行われているか、その効果指標にはどのようなものがあるか整理するために、文献検討を行った。令和2年度は、女性のヘルスリテラシー向上に向けた介入を行い、その成果を報告している文献を収集し、スクリーニング

を行って領域の整理を進めた。

## B. 研究方法

本研究では、特定の介入に関する効果の有無や程度を明らかにすることを目的としたものでなく、対象領域で報告されているのはどのような介入がどの程度あるか明らかにすることを焦点としたため、Scoping reviewとして文献調査を実施した。「女性の健康」については女性特有の疾患の予防、女性特有の体の変化に適切に対応することととらえ、主要ながん(子宮がん、卵巣がん、乳がん)、月経(困難症や過小、過多などを含む)、更年期(関連する障害を含む)、骨粗鬆症をキーワードとした検索を実施した。検討対象は疾患予防や症状への対応に限定することとし、妊娠・出産に向けた健康支援に関する文献は除外した。

データベースは PubMed, Embase, Cochrane, Web of science, Emcareとし、2000年以降に発表された論文を対象に、2020年11月2日に検索を実施した。キーワードは①介入、②ヘルスリテラシー、③女性特有の疾患や健康課題の掛け合わせとした。①のキーワードとして"interventions", "increase", "improve"、②のキーワードとして"Health Literacy", "health literate", "health numeracy", "Health Knowledge, Attitudes, Practice, "health awareness"、③のキーワードとして子宮がん関連(Uterine Neoplasms, uterine cancers, uterine carcinomas, uterine adenocarcinomas, uterine tumors, uterus cancer, uterus carcinoma, uterus tumor など)、乳がん関連(Breast Neoplasms, breast cancers, breast carcinoma, breast adenocarcinomas, breast tumor など)、卵巣がん関連(Ovarian Neoplasms, ovarian cancer, ovarian carcinomas, ovarian adenocarcinoma, ovarian tumor, ovary cancer, など)、月経関連(Menstruation, menstruation, Menstruation Disturbances, Amenorrhoea, Dysmenorrhoea, Menorrhagia, Oligomenorrhoea, Premenstrual Syndrome, Premenstrual Dysphoric

Disorder など)、更年期、骨粗鬆症関連(Menopause, menopause, perimenopause, postmenopause, premenopause, Female Urogenital Diseases, Osteoporosis, osteoporosis)を用いた。

## C. 研究結果

PubMed で 1661 件、Embase で 828 件、Cochrane Library で 318 件、Emcare で 262 件、Web of Science で 123 件の文献が得られ、重複文献を除いて 2260 件の結果を得た。包含基準としては、①女性の意識や知識、行動変容などの健康支援をテーマとしたもの、②何らかの介入を行いその成果を評価している文献、③量的研究、④言語が日本語または英語のもの、⑤調査対象が対象疾患に罹患しておらず、その予防が介入の焦点であるもの、⑥2000年以降に発表されたものとし、研究者 2 名でタイトル及び抄録でスクリーニングを行った。

次に選定された 591 件を対象に本文を確認し、さらに基準への該当を確認した。遺伝性乳がんのリスクに対するカウンセリングなど実施の場所や対象が限定されるものについては除外した。その結果、現時点で 278 件を対象として介入の内容、対象者の年代、介入結果、結果の評価方法について整理を進めている段階である。

現時点で、対象文献のテーマは乳がん予防・早期発見 117 件、子宮頸がん予防・早期発見 57 件、卵巣がん予防 1 件、がん全般予防 7 件、性行動(感染症予防・性教育) 38 件、骨粗鬆症予防 36 件、更年期症状予防 10 件、月経前症候群など月経への対処 4 件、健康のための運動推奨 2 件、骨盤底筋のトレーニング 2 件、栄養教育 1 件、女性の性機能(更年期以降) 1 件、ヘルスリテラシー全般 1 件、多膿疱性卵巣症候群 1 件であった。最も文献数の多かった乳がん予防については、乳がん全般に関する知識や意識の向上、自己検診の習得、マンモグラフィ検査受診勧奨が主要な目的であった。内容は WEB ベースの方法やパンフレットの活用、講義やグループセッションなど様々な方法による教育・情報提供が中心であり、介入効果は知識の測定や自己検

診の実施頻度、検診受診率などであった。子宮頸がんに関しては検診受診率向上のほか、ワクチン接種への意識を高めるための教育や情報提供が行われ、対象者の意識や知識が評価のために測定されていた。骨粗鬆症予防や性教育についても、教育の結果として知識や栄養摂取、性行動（避妊等）などの行動変容が測定されていた。今後、介入内容の分類とそれに応じた効果の評価の方法を整理する予定である。なお、この結果は現時点でのものであり、整理を進める中で今後除外になる文献など、文献数の変更は考えられる。

#### D. 考察および E. 結論

現時点での文献の概要からは、乳がん予防や子宮頸がん予防のための介入が多く発表されていた。検診受診、早期発見が有効であることが明らかであり、女性自身の必要性の理解と行動が必要となるためであると考えられる。次いで性行動に関するものや骨粗鬆症予防について一定の文献数が得られていた。これらの疾患の受診勧奨については国内の自治体による取り組み、性行動に関しては学校等の取り組みが行われていることが推測できる。今後の文献整理により、効果的な取り組みの要素やその評価の視点について検討したい。

更年期症状や月経関連については文献数が少ない傾向であった。これらについては症状が強い場合には自己管理だけでなく薬物療法など治療の対象となることから、知識や行動変容といった観点での文献数が少なかった可能性がある。これらについても、症状対処などの効果的な取り組みが明らかにされているかどうか、またその評価方法はどのようなものが考えられるかを検討していきたい。

また、性行動をテーマとした文献では、避妊や性行動のコントロールを重要視した内容のものが中心であった。本研究では妊娠・出産に向けた健康支援は除外したためこのような結果が得られた可能性があるが、プレコンセプションケアの重要性が高まる中、妊孕性について正しく伝える介入などはどの程度行

われているのか、女性の生涯にわたる健康支援の観点からは確認する必要があると考える。

#### F. 健康危険情報

特になし

#### G. 研究発表

なし

#### H. 知的財産権の出願・登録状況

##### 1. 特許取得

なし

##### 2. 実用新案登録

なし

##### 3. その他

なし

#### 引用文献

- 1) 中山和弘. ヘルスリテラシーとヘルスプロモーション, 健康教育, 社会的決定要因. 日本健康教育学会誌 2014; 22(1): 76-87.
- 2) Sørensen K, Van den Broucke S, Fullam J, et al. ( HLS-EU ) Consortium Health Literacy Project European. Health literacy and public health: a systematic review and integration of definitions and models. BMC Public Health. 2012; 12:80.
- 3) 日本医療政策機構. 働く女性の健康増進調査 2018. <https://hgpi.org/research/809.html/> (2021年5月7日にアクセス)